

永年在職25年 村上氏を表彰

衆院本会議

自民党県連会長の村上誠一郎氏(59)は衆院2区Ⅱが26日、衆院本会議で永年在職25年の表彰を受けた。県関係では関谷勝嗣氏が2001年に参院で表彰されて以来。

村上氏は衆参同日選だった1986年の衆院旧愛媛2区で初当選し、以来8期連続当選。行政・規制改革担当相や財務副大臣などを歴任した。

表彰を受け、村上氏



永年在職25年の表彰を受け、衆院本会議場の壇上に上がる村上誠一郎氏(右から3人目)＝26日

は「地元愛媛をはじめ、応援してくれた全国の方々と支えてくれたスタッフ、家族に厚くお礼を申し上げたい」と述べた。喫緊の政治課題として財政と外交、教育の立て直しのほか、福島第1原発事故の早期収束を掲げ「これから全力投球で頑張っていきたい」と意気込みを見せた。

同日は村上氏のほか、民主党の鳩山由紀夫前首相や自民党の石破茂政調会長ら8人が表彰された。

(和泉太)

愛媛

新聞

新

聞

東

京

新

聞

9人に在職25年表彰

衆院は26日の本会議で、民主党の鳩山由紀夫前首相ら9人を永年在職25年で表彰した。表彰されたのは鳩山氏のほか、川端達夫(民主)、大野功統、武部勤、金子一義、村上誠一郎、逢沢一郎、石破茂(以上自民)、園田博之(たちあがれ日本)の各氏。



鳩山由、石破氏ら 在職25年表彰

衆院は26日午後の本会議で、民主党の鳩山由紀夫前首相や自民党の石破茂政調会長ら9人を永年在職25年で表彰した＝写真。

表彰は両氏のほか、民主党の川端達夫

議院運営委員長、自民党の武部勤元幹事長、金子一義元国土交通相、逢沢一郎国対委員長、大野功統元防衛庁長官、村上誠一郎元行革担当相、たちあがれ日本の園田博之幹事長。

9人は1986年7月の衆参同日選で初当選、以来八期連続当選を果たしている。

ご挨拶

衆議院議員 村上誠一郎

この度、院議をもって永年在職議員の表彰の榮譽を賜りましたことは、身に余る光榮であり、感慨無量の思いです。

昭和六十一年の初当選以来、八期連続私を支え続けて下さった地元愛媛の皆様、全国で応援して下さい下さった方々、議員同僚の皆様、党職員、事務所・役所のスタッフ、そして母、家族に心から厚く御礼申し上げます。

私は、小学生の時に宮沢賢治の「全人類が幸福にならない限り、個人の幸福はありえない」という文章に出合い、政治家を志しました。

父信二郎、伯父孝太郎が私の大学入学前後に早世したため、二人の遺志を継ぐべく、財政、国防、外交、教育を中心に政治活動を行ってきました。

大蔵政務次官を皮切りに、自民党財政部会

長、衆議院大蔵常任委員長、初代財務副大臣を歴任してきました。大蔵委員長の時はバブル崩壊後の金融危機で、日本発の世界金融恐慌を起こさないという固い決意の下、六十数本の法案を処理しました。財務副大臣の時には二度予算編成をし、戦後初めての診療報酬の引き下げ等を担当しました。自民党愛媛県連会長としては、中選挙区から小選挙区への移行時に、七人の衆議院議員の調整に尽力し、また明るい県政の実現のために努力しました。

平成十六年に、行政改革・構造改革特区・地域再生担当の国務大臣、また規制改革・産業再生機構担当の内閣府特命担当大臣として初入閣しました。行政改革では三十二の独立行政法人を二十二に再編し、公益法人制度改革・公務員制度改革等に取り組みました。規制改革においては市場化テスト・混合診療の解禁・中医協の見直し・幼保一元化等を手掛けました。地域再生においては地域再生法の

成立と地域再生計画を四百五十三件認可し、特区においては学校の天井高規制の撤廃等全国的な規制緩和を実現しました。産業再生機構においてはダイエー・ミサワホーム・アビバジャパン等十八件の支援決定等を行いました。不眠不休でありましたが、非常に充実した十四ヶ月でした。

今、日本の喫緊且つ最大の課題は、財政・外交・教育の立て直しと、東日本大震災の復興です。財政は歳入欠陥構造を一日も早く是正し、受益と負担のバランスの取れた持続可能な社会保障制度を構築し、財政破綻を食い止めることです。外交は日米関係を修復し、更に強化して世界に貢献できる国家を目指すことです。教育は「読み、書き、そろばん」と^{しつけ}読解力・文章力・数的処理能力を強化し、中等教育において自分の頭で考え抜く力をつけ、公の精神と青年の矜持を持ったリーダーを作ることです。

この財政・外交・教育の立て直しと、福島

原発事故の早期収束と東日本の復興のために
政治生命ある限り、河本敏夫先生の「政治家
は一本のローソクたれ。（政治家は己の身を
焦がして周りを明るく照らせ）」という言葉
を肝に銘じ、全身全霊で立ち向かう所存であ
ります。

最後に、政界においてご指導ご鞭撻頂いた
皆様、とりわけ河本敏夫先生、竹下登先生、
梶山静六先生方に感謝を申し上げ、表彰に対
する御礼の言葉といたします。